



ケイヨウギンヨウのケイヨウインコ

博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい! 千葉のおもしろ 博物館

第10回

伊能忠敬記念館(香取市)



インタビュー

“中の人”に
聞いてみました

伊能忠敬の人生を追うことで、わが国 最初の実測日本地図誕生の物語を知る

伊能忠敬記念館は、わが国最初の実測日本地図を作り上げた伊能忠敬の生涯を軸に展示を行い、彼の素晴らしい功績と興味深い人物像を伝えています。中でも49歳で隠居し、地図作りに掛けた日々についての紹介に重点を置いた展示内容となっています。

元々、天文学や算術に強い興味を抱いていた忠敬でしたが、婿養子入りした伊能家を経営しなければなりません。その経営を大成功させ、その商才で築いた財産、家督を譲り隠居した後、天文暦学を専門的に勉強するために江戸へ移ります。そして地図作りのため、初めて測量の旅に出たのは実に55歳！当時の平均寿命が30～40歳（諸説あり）だったことを考えると、大変な高齢者です。ご来場者の中には、これを「セカンドライフのお手本」として捉える方も多いようです。

博物館の主な目的の一つとして、多くの人が教科書で伊能忠敬の名前を知っていても「なぜ彼が全国測量を行ったのか」という意外と知られていない経緯や動機をきちんと伝えることです。

そのため、伊能忠敬の功績を伝えるため多角的な視点からの展示を行っています。彼が伊能家に迎えられ歩んできた人生。50歳になってからの決断。当時の時代背景。測量の旅。そこで使われた技術、そして出来上がった地図。そのどれを取っても非常に興味深く、研究、興味の対象として素晴らしいものばかりです。

ですので、皆さんの鑑賞の仕方も多岐に渡っています。香取神宮へ行った後の観光で「教科書に載っていたあの伊能忠敬だ」という思いで気軽に訪れる方、とにかく地図（伊能図）を細かく観察される方。当時の観測技術に興味を持たれる方など本当にさまざまです。社会科の学習で来館される小学生の皆さんは、測量に使われた道具に興味を持たれる方が多いですね。皆さんもぜひご自分の視点で当館をお楽しみいただければ幸いです。



伊能忠敬記念館
学芸員 石井 秀和さん



伊能忠敬記念館とは？

わが国最初の実測日本地図を作り上げた伊能忠敬の人生を年代順に紹介し、業績の結晶である伊能図をはじめ、測量器具、日記、書簡など国宝に指定された資料も多数展示されています。

「北総の小江戸」と呼ばれる水郷の町、その中心を流れる小野川からすぐの場所にある土蔵造り風の建物が目印です。

え そ ち そくりょう しょうず 蝦夷地測量小図

伊能忠敬が作成した最初の実測地図です。蝦夷地には色彩がありますが、本州部分は測量して歩いた街道が朱線で描かれています。



伊能図の圧倒的な迫力 そのち密さは想像を超える素晴らしさ

展示室の入り口で皆さんをお待ちするのが「伊能図とランドサットから見た日本」。伊能図とランドサット(地球観測衛星)による、日本全図を交互に浮かび上がらせたその映像に来場者の皆さんの多くがまず歓声を上げられます。衛星はもちろん飛行機もない時代に作られた伊能図。その精密さと統一性は現代の地図と比べてもほとんどずれがなく、その技術と業績の素晴らしさを私たちにダイレクトに伝えてくれます。

展示室は、忠敬の生涯を追って、資料や道具、地図の展示が行われています。順路に沿って見ていくことで、忠敬の人生や業績を体験していくことができます。50歳を超え一気に天文学、地図作りに邁進していくその姿。今では想像もできない当時の測定の姿と道具の数々。そして何と見ても見事なのは、出来上がった地図の存在です。日常では決して見るることのできない大型の地図には、測定の旅の苦労とち密さが分かる細かな書き込みもあり、それを間近で観察できるのも当館の魅力の一つです。



展示室内に入ると、伊能忠敬の49歳までの前半生を紹介するコーナー、「佐原時代」になっています。家業の酒造業の帳簿や自筆の家訓書など、とても貴重な品々が展示されています。



伊能忠敬が隠居してからのも勉強と全国測量の工程を紹介するコーナー、「全国測量へ」。測量に使われた道具も数多く展示されていて、見応えがあります。



「伊能忠敬像」。伊能忠敬唯一の肖像画です。忠敬の死後、弟子で絵師の青木勝次郎が描いたと伝えられています。

伊能忠敬旧宅

伊能忠敬が17歳から49歳まで30年余りを過ごした家で、国の史跡に指定されています。

醸造業などを営んでいた伊能家の土蔵造りの店舗のほか、炊事場、書院、土蔵が残っています。旧宅内の奥に建つ土蔵は、桁行四間、梁間三間の切妻造りで、入口の扉は観音開きが普及する以前の引き戸のもので、佐原地域でも貴重な土蔵です。

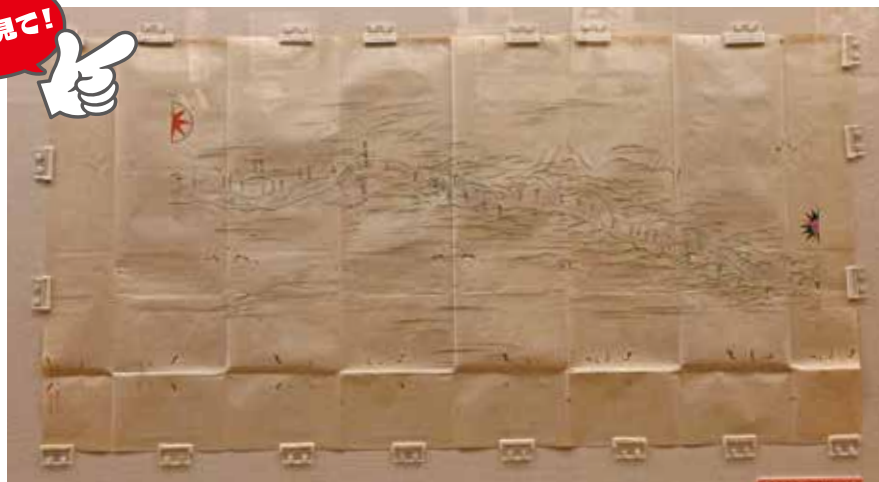
「伊能忠敬記念館」から、小野川を挟んですぐ近くにあるので、一緒に見学をしてみたいはいかがでしょうか。



●問い合わせ／伊能忠敬記念館
香取市佐原イ1722-1 TEL.0478-54-1118

すごい!このホンモノを見逃すな!

伊能図(奥州街道図 大図)



伊能忠敬が作製した日本地図は、「大日本沿海輿地全図」(大図214枚 縮尺1/36,000、中図8枚 1/216,000、小図3枚 1/432,000)の他、測量ごとに作製した地図や名勝地を描いたものなど、多くの種類があり、総称して「伊能図」と呼ばれています。

いずれの地図も実際に測量して作製されたものなので、とても正確であるとともに、芸術的な美しさを備えています。

大図1枚の大きさはほぼ畳1枚。日本列島を214枚でカバーするもので、全部を並べるためには体育館ほどの大きな面積が必要です。

この「奥州街道図 大図」は現存する伊能図の貴重な1枚。収蔵品展では実物が展示

されていて、鑑賞することができます。間近に見る大図は単なる観測の記録ではなく、美しい山々の様子までもが描きこまれ、まるでそこを旅しているようなワクワクした気持ちにもさせられます。

奥州街道は江戸時代の五街道の一つで江戸日本橋(または江戸城大手門)を起点として千住から白河へと至る街道です。

実は、地図完成に至る17年に渡る観測の旅は、10回に分けられて行われましたが、その第一次測量もこの奥州街道を通り、蝦夷地まで行く旅でした。つまり伊能忠敬が地図作りの最初に目にした風景だったのかもしれません。

※収蔵品展は2カ月ごとに展示替えをしています。

企画展も見てみよう!

こんな企画展もやっていました

伊能忠敬記念館では、定期的に伊能忠敬をテーマにさまざまな企画展、特別展が開催されています。



【伊能流測量術のヒミツ】

国宝に指定された忠敬の測量器具類を一堂のもとに公開する企画展。令和5年には忠敬の測量術を紹介した「量地伝習録」の記述と照らし合わせて紹介されました。



【伊能図の再生 ～国宝保存修理事業のあゆみ～】

令和6年の企画展では平成23年以降修理を行っている伊能図を展示し、修理の過程で得られた知見を紹介。伊能図が現在まで残されてきた歩みの一端を明らかにしました。

《もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館》今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第10回をご覧ください。



今回誌面でご紹介した、わが国最初の実測日本地図を作り上げた伊能忠敬が初めて測量の旅に出たのは何歳の時でしょうか。次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① 49歳
- ② 50歳
- ③ 55歳

取材協力・撮影協力・写真提供／伊能忠敬記念館

プラス  で、未来をともし。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌

検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント

@keiyobk_official



X 公式アカウント

@keiyobkofficial



正解は→③ 55歳

2025.10
(次回発行予定/
2025年11月20日)